

京都大学医学部附属病院の基本理念

- ① 患者中心の開かれた病院として、安全で質の高い医療を提供する
- ② 新しい医療の開発と実践を通して、社会に貢献する
- ③ 専門家としての責任と使命を自覚し、人間性豊かな医療人を育成する

患者さんの権利と責務

本院は、基本理念に基づき、患者さんの権利を尊重しつつ

患者さんに最善の利益がもたらされるよう

安全で質の高い医療の提供に努めます。

同時に、医療を受けられる方々と医療者が良好な関係を保ち

安心して療養いただくためにも

患者さんの責務をお守りいただくようお願いします。

【患者さんの権利】

- ① 人としての尊厳を保ちながら、良質の医療を受ける権利
- ② 十分な説明と情報提供を受け、自らの意思で治療法などを決定する権利
- ③ 個人に関するプライバシーを保護される権利

【患者さんの責務】

- ① 自己の健康情報を医療者に対して正確に提供する責務
- ② 診断や治療にあたって積極的に理解し協力する責務
- ③ 他の患者さんや医療者の医療提供の支障とならないように配慮する責務

| 病院長挨拶 |



京都大学医学部附属病院 病院長
三嶋 理晃

京都大学医学部附属病院のガイドンス(2013)の発行にあたり、ご挨拶を申し上げます。京大病院は1899年に開設され、本年で114年目を迎えます。開設当時は、内科・外科・耳鼻科・産婦人科・小児科・皮膚科・眼科の7科でしたが、その後発展を遂げ、現在では33科・1,121床・職員約3,000人を有する特定機能病院に成長しました。

2004年国立大学が法人化し、独力で経営責任を有することが明確化され、これに呼応して経営努力を続け、安定的な組織に脱皮いたしました。京大病院は、「患者中心の開かれた病院として、安全で質の高い医療を提供する」、「新しい医療の開発と実践を通して、社会に貢献する」、「専門家としての責任と使命を自覚し、人間性豊かな医療人を育成する」の実現を目標としてきました。この理念の実現に引き続き努力してまいります。

診療面では、「京大病院がんセンター」が順調に稼働しています。積貞棟1階では、各臓器で内科・外科・放射線科が合同してユニット外来を行い、外来化学療法がさらに充実しています。「臓器移植チーム」は、肝移植や肺移植などで多くの実績を上げています。また、脳卒中診療部(SCU)の活動は、地域医療連携充実のシンボルとしての機能を発揮しつつあります。手術支援ロボット(da Vinci)は順調に稼働して実績を上げつつあります。また、一昨年度に発足したリウマチセンターは、「全身の関節炎をきたす、関節リウマチ及びリウマチ性疾患に関する集学的な治療、最先端の効率的な研究、組織だった教育を実践する」というミッションを実現しています。医療の国際化も現在の最も重要な課題のひとつです。現在ブータンやサウジアラビアと京大病院との、医療スタッフ交流プログラムが具体化しつつありますし、京大病院で行っている高度医療を

駆使して国際貢献をしたいと祈念しています。

教育面では、関係病院と連携して、研修医学部教育と初期研修教育の整合性の確保、初期研修医の処遇改善、若い医師の関係病院間の円滑なローテーションの確立、医療スタッフのキャリアパスの形成などに力を注いでいます。自己の持つ技量を最大限駆使して患者さんの治療に全力を尽くす「Service」、実地臨床から真実を見出して新しい医学を創生する「Science」の両立、すなわち「ダブルS」を有することが医療人の希求条件であり、この理念で医療人を育てていきたいと思っております。

研究面では、2011年度に竣工しました「先端医療機器開発・臨床研究センター」が、最先端医療機器の開発・マネジメントのための人材育成の場として、さらに臨床研究の拠点として、本格稼働を始めています。また、2011年に病院内に設置されました「iPS細胞臨床開発部」は、山中伸弥先生が所長を務めておられる「iPS細胞研究所」と連携して数年の間に、iPS細胞を用いた再生医療の臨床治験を始めるべく準備を進めています。昨年京大病院は「臨床研究中核病院」に指定されました。創業・医療機器の開発において、基礎研究から臨床応用に至るまでの一貫したシステムを構築し、日本の医療の発展に貢献したいと思います。

大きな組織がさらなる発展を遂げるためには、構成員全員が組織を愛し、心ひとつになって努力することが大切と考えます。この点、京大病院は、超一流の医療スタッフ・職員から構成されており、各自の病院を愛する心は格別のものであります。2013年度以降も京大病院のさらなる飛躍をめざします。皆様におかれましては、今後共、ご支援・ご鞭撻の程、よろしく申し上げます。